

善幸さんの遺徳を後世に

鈴木元総理の像と顕彰碑が完成、除幕式が行われる



①鈴木俊一さんらの手により行われた除幕の様子／②顕彰する会の阿部金一副会長から銅像一式と寄付金の目録を受け取る沼崎町長／③宮古水産高校の生徒による宮水太鼓の演奏／④除幕式に先立ち披露された山田高校吹奏楽部の演奏／⑤記念講演で鈴木元総理との思い出を語る中島誠之助さん



お礼の言葉 鈴木 俊一

父を顕彰する会の皆さまの温かいお気持ちによりまして、山田町民の皆さまをはじめ、県民そしてまた全国の水産業会を中心とした皆さまのご協力により父の銅像を建立して

いただきました、まことに光栄のことです。私の父は山田に生を受け、小さいころから海に親しみ、そして古里山田をこよなく愛しておりました。政界に入りいろいろな仕事をさせていただきましたが、父は終始古里山田町をはじめとするこの三陸・岩手県の発展と、そして水産業の振興のために尽くしたその初めを忘れた政治家であったと思います。晴れがましいことを好まない父でしたが、晩年は折に触れ叙勲のごさもありましたが辞退しておりました。けれども、唯一お申し出を受けて大変喜んでおりましたのは、古里山田町の名誉町民の称号と、もう一つは大日本水産会から贈られた「水産翁」という称号でした。郷里を愛し、そして水産業の振興に努めてきた父にとっては、この2つの称号が何ものにも代えがたい誉れであったと思っております。今回は郷里の皆さま、そして水産会の皆さまを中心とした方々の真心によりまして立派な銅像を建立していただき、父も恐縮しながらも深く深く感謝をしていることと存じます。7月19日はちょうど父の4回目の命日でございます。その折にこのような銅像を建立していただき、心から感謝を申し上げます。まことにありがとうございました。



佐藤マサさん（長崎・74）＝写真左＝、佐藤ヨヲさん（長崎・72）姉妹

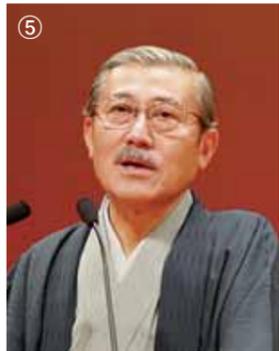
来場者にインタビュー

思っていたより大きくて、立派な像ですね。善幸さんが初めて選挙に立候補したとき、実家の父が県立水産学校の同級生だったこともあって、みんなで応援しました。後援会の集まりがあったとき、善幸さんにお酌したことを覚えています。



鈴木善幸元内閣総理大臣の像と顕彰碑がこのほど完成し、7月20日に除幕式が行われました。会場となった町中央公民館前には700人が来場。神事に続いて行われた除幕では、親族の鈴木俊一衆議院議員や麻生太郎衆議院議員、水産関係者や町内の小中学生らの手で幕が引かれ、鈴木元総理の像がお披露目されました。像はブロンズ製で高さ2・2メートル、首相に就任した69歳のころの全身像となっています。また、当時着ていたスーツや靴なども現物を元に再現され、像がその姿を現すと会場からは盛んな拍手が送られていました。式終了後は町中央公民館大ホールに会場を移し、県立宮古水産高校の生徒が宮水太鼓とエールを披露しました。続いて行われた記念式典では、主催者を代表して顕彰する会会長の沼崎喜一町長が「善幸先生は常に漁民の代表であることを心に銘じ、また和を大切にす政治家

でした。また、偉ぶらず皆さんにやさしく言葉を掛けることから、私たち町民はもとより多くの国民から『善幸さん』と親しまれました。善幸先生は93歳で長寿をまっとうされましたが、郷土の生んだ政治家としての灯火は消えることがありません。この場所は善幸先生が卒業された山田尋常高等小学校の跡地であり、昭和57年に総理大臣として郷土入りされたとき町民がお迎えした記念すべき場所でもあります。善幸先生には生誕の地から三陸の海を眺め、日本の国と郷土の皆さまの末永い安寧と反映を見守りつづけていただきたい」とあいさつ。全国漁業協同組合連合会の服部育弘代表理事会長の祝辞に続き、親族を代表して長男の鈴木俊一衆議院議員から謝辞が述べられました。その後、顕彰する会から銅像と顕彰碑一式が町に寄付されたほか、集められた寄付金の残金が鈴木善幸記念館（文庫）の建設基金として町に贈られました。式典終了後は中島誠之助さんによる記念講演が行われ、中島さんは青年時代に善幸さんの計らいで漁船に乗り、外国へ行ったエピソードなどを披露。出席者は講演を聴きながら、善幸さんの在りし日の面影をしのんでいました。



⑤ 除幕参加者にインタビュー
ぼくはこれまで、鈴木善幸さんがどんな人なのか知りませんでした。ポスターなどで鈴木俊一さんは見たことがあったので、像を見てすごく似てるなあと感じました。山田出身で総理大臣になったということを知って、すごい人が山田にいたということが分かり、とても驚きました。



西川 太一君
(山田南小6年)